

多機能型事業所あそび

内定者フォローアップ オンライン研修会

今年度の新卒採用活動は、大きな変革の年となりました。新型コロナウイルス感染症対策のため、採用活動はオンラインが中心となり、対面でのガイダンスもほとんどが中止となりました。そのような状況下、喜ばしいことに平成会では8名の学生の採用に結び付けることができました。平成会の強みの一つは「内定辞退0%！」です。例年は、レストランでの食事会など、様々なイベントを実施してきましたが、今年度の内定者フォローは「オンライン研修会」という形に変更しました。

若手職員が中心となり、「自己紹介スキル」「社会人のマナー」「平成会の職員像」等をテーマに、親交を深めながら月1回の研修会を重ねてきました。次第に、内定者の皆さんの表情も和らぎ、先輩職員との信頼関係も深まっています。



人材確保委員会の一員として、4月に新しい仲間が加わることを心待ちにしています。
支援員 早坂 駿平

デイセンター「こだま」

コロナ禍の新年会

新型コロナウイルスの影響により、昨年デイセンター「こだま」で予定されていた「1日お出かけ」や「こだま旅行」といった行事が軒並み中止となりました。そんな中でも、利用されている方が楽しめるようなイベントを企画し、従来の活動を見直す良い機会となった1年でした。

そして今年に入ってすぐの新年会も、昨年までは近くの神社に初詣に出かけていたのですが、今まではひと味違う内容で開催しました。

まず、お抹茶を立て和菓子と一緒にいただきました。その後、段ボールで作った赤い鳥居の「こだま神社」に参拝し、鳥居に吊るされた千本くじを引きました。このお正月、コロナ禍で初詣に行かなかった方も多いと思いますが、誰しも心の中で「皆が健康で過ごせますように」と祈ったことでしょうか。こだまの利用者も、それぞれに「こだま神社」に手を合わせていた姿が印象的な新年会でした。



こだま神社に参拝

今後、どのような状況になっても、どのようか分かりませんが、新しい活動を取り入れながらデイセンター「こだま」を盛り上げていきたいと思っています。
支援員 清水 菜央

ヘルパーサービス「たま」

日々の積み重ね

新型コロナウイルスの感染防止としてマスクの着用を求められる中、感覚過敏などでマスクを着用できない方がおられます。

ヘルパーを利用中もマスクを着用できない為、屋外で過ごすことが多くなりますが、以前のようにスーパーでの買物などが楽しめるようにできないかと、色々な取り組みを行っています。

Aさんはマスクをするのが苦手です。最初は、マスクを見ただけで「ダメ！」と怒っていましたが、8月頃から、ご家族とも相談して、マスクをつける取り組みを始め、不織布から布のマスクに変更してみたところ、10月頃には自分で口に当てることができるようになりました。しかし、すぐに外してしまうため、マスクをつけている間、数を数えるようにして、少しずつ時間を延ばしていったところ、今ではタイマーを活用して、必要な場面でもマスクを外出を楽しめるようになりました。

Aさんは小さい頃から場面の切り替えなどで数を数えることが習慣になっていたのですが、これまで積み重ねた経験が良い結果につながったのかもしれない。

Aさんの支援を通じて、私たちも日々の積み重ねの大切さを感じることができました。

ヘルパー 堀越 優一

Sさんの一言から

Sさんは、あおぞら工房でウエスの製造作業をしています。ある日、Sさんから「自衛隊にウエスは納品できるの？」と質問されました。Sさんは、大の自衛隊好きです。私はSさんに訊かれるまで、自衛隊に納品することを考えた事もありませんでした。

早速、自衛隊に連絡を取ってみましたが、これは残念な結果に終わりました。しかし、その後海上保安庁が障がい者施設からウエスを購入している事が分かり、すぐに連絡したところ、お話を聞いて下さる事となり、商談の結果ウエスを納品できるようになりました。

この度は、Sさんの一言からウエスの顧客開拓をすることができました。そのことをSさんに伝えると、「えかったの。ちったあ役に立ったんかの？」との返事でした。「大助かりです」と応えると、「そうね」と少し微笑んでその場を離れました。自分の一言が顧客開拓に繋がったことが嬉しかったです。今後も、利用者と職員が気持ちを一つにして生産をしていきたいと感じた出来事でした。



最後に、あおぞら工房は現在もウエスのお取引先様を探しています。ご興味があれば、ご連絡頂きたいと思っています。よろしくお願います。
管理者 内田 孝洋

宮領デイセンター

平成会へ再就職

私は、5年前、結婚して広島市に転居することになり、7年間勤めた西の池学園を退職しました。

2人目の子どもが生まれ、子どもの教育を考えた時、自分が育った東広島で子育てをしたいという思いが強くなり、家族と相談して東広島市に帰って来ました。

子どもの保育園を探しましたが、年度途中からの入園は難しく、なかなか見つかりませんでした。また、私自身も仕事をしたいという思いもあって悩んでいた所、平成会が求人している事を知りました。平成会は保育園を新設しており、自分の条件にあった働き方ができると思い施設見学に行きました。保育士の方々が優しく、園の雰囲気も良かったので安心して預けることができます。思い入園させてもらおうと同時に、自分の再就職を希望し復職することもできました。

今では、子どもは保育園に通うのが楽しく、「毎日、保育園に行きたい」と言っています。

私の勤務先は、保育園の隣にある「宮領デイセンター」です。人間関係も良好で、職員同士で切磋琢磨しながら学び、共に成長できる環境にあり、ます。再就職して良かったと、日々感じています。



支援員 貫名 恭子

放課後等デイサービス「タム」

春から中学生

この春、中学校に進むAさん。中学生になったら「友達を増やしたい、話がたくさんできるといいな」「テストでいい点を取りたい、勉強をたくさんしないといけない」と、頑張りたいことや不安なことを私に話してくれました。

Aさんとの出会いは、Aさんが4年生になった春でした。

Aさんは友達と遊ぶ場面で、自分の思いが通らない時、喧嘩になることがよくありました。その都度職員が間に入って、お互いの思いには違いがあることを伝え、折り合いをつける練習をコツコツとしてきました。年々、相手の気持ちを受け入れることができるようになり、友達とのトラブルも少なくなりました。

相手に思いを伝え、思いを聴くことの経験を積んだAさんは、友達との関係を築きやすくなり、相手に対して優しく接したり、丁寧な言葉でお話をしたりして、心に余裕も生まれてきたように感じています。

中学生になったらいろんな事に挑戦して、Aさんのペースで成長して欲しいと願っています。



保育士 斎藤 萌

※誌面の写真、名前については、ご本人の同意を得て掲載しています。